令和５年度 第２回学校運営協議会議事録概要

日時 令和５年 11 月 22 日 15：30～17：00

場所 大阪府立堺工科高校 会議室

出席者（委員・事務局）

大阪工業大学教授 皆川 健太郎　　株式会社ダイネツ係長 西尾 真由美

大仙連合こども会 玉城 優　　堺市陵西中学校長 村田 政教

堺工科高等学校 PTA 会長 中村 弥生

大阪公立大学教授 土井 智晴（文書によりご意見）

堺工科高等学校教員　東 秀行（校長）・佐藤 義勝（教頭）・義永 高徳（事務部長）・小寺 雅仁・堀江 拓史・伊豆田 展弘・吉井 恭平・瀧澤 縁・阪本 雅一・神前 和博・山本 裕樹・垣内 宏海・木村 唯那

１．開会のあいさつ（校長）

２　学校経営計画について

（１）学校経営計画の進捗状況について

【人間力の育成】

・基礎学力の生徒の自己評価は上がっている。

・基礎学力診断テストの学年平均得点向上。

・一人三回までの遅刻を目指すが、増える可能性あり。

・懲戒件数、昨年１４件→今年１９件と昨年を超えている。

・生徒活動の活性化についてコロナ以前に戻り満足度が上がっている。

・いじめ事象、今年は二件。

・支援教育について、肯定率７０％を記録し目標達成。

質問　いじめアンケートの結果は生徒から出てくるのか。

→回答から担任の聞き取りが入る。

質問　今年のいじめ事例はどう分かったのか。

→生徒本人からの申し出。

質問　基礎学力の件、分布で見た方がいいのでは。遅刻三回までというのも生徒の意識低下に関わるのではないか。

→現在は５％以下、遅刻回数が多い生徒が多い、心の問題で遅刻してしまう生徒がいる。

【工業教育の充実】

・企業等連携による専門系授業の充実。

・各種資格取得の推進、目標８５０人にこのペースなら達成可能。

・今年度は三年生全員何かしらの資格を持って卒業可能。

・各種技能コンテストへの挑戦、数々の結果を残している。
・二年生に探究的な授業の導入。
・工業教育の魅力発信として、Instagram の活動再開。
【教員の資質向上】
・会議における教員の肯定率向上。
・定時退庁の徹底の数値が落ちた。
質問　授業力向上について、教員は上がっているのに保護者と生徒の肯定率が下がっているのはなぜか。
　→基礎学力が付いているのかについては教員も納得していないが工夫はしている
質問　教員が工夫していることについて保護者に発信しているのか
　→必要という事であれば検討していくが、現時点ではしていない。
質問　教員の研修の参加率低下はなぜか。研修開催時期が変わったからか。
　→計画通り行っているものの参加率が低くなっている。
【地域との連携】
・三系合同の課題研究を来年度から本格的に始める。
・今年度は企業と連携し課題研究を先行実施。
・防災訓練を２回実施。
（２）学校教育自己診断について
・クロームブックの活用に関する肯定率が保護者・生徒の肯定率向上。
・基礎学力向上を生徒自身も感じている。
・教員は基礎学力が向上しているかについては否定的。
・学校の指導方針に保護者は共感できていないか。
・職員会議の肯定率向上。
・教員の保護者への情報提供についての肯定率低下はコロナに関する情報発信がなくなったからか。
意見　増減率だけでなく低いものにも着目するべき。
（３）進路状況について
・就職・進学状況は昨年と変わりない。
・求人者数、求人企業数が増えて生徒が選びやすくなっている。
・一次の合格率が９３％と高くなっている。
・今年度は大企業の希望が増え、合格者も増えている。
・４月から現在に至るまでに就職希望や進学希望の推移があるが例年通り。
質問　何か変化があったか。
→事務職、電話対応の仕事が増えた。また建設業の求人が多くなったか。
質問　離職率の状況はどうか。
→現在調査中、１２月に結果が出る。

３　協議　令和７年度　工学系大学進学専科設置について

【専科設置の経緯等について】　校長

・今までの３系に工学系大学進学専科を加えることが、府教育委員会会議で決定された。

・普通科にある進学コースなどではなく、この専科は工業科目２５単位（半分は実技）以上を設定する工業専門の専科であり、現在の総合募集と分けて単独で募集することとなる。

・この専科は、技能技術と技術理論を併せて身につけた人材育成を目的とするものである。同時に、工業系高校からの進学が可能であることを発信していく意味も持つ。

・高校全体で見ると進学を希望する生徒の割合は増加傾向にあり工業系高校からの大学進学者も一定数いる。しかし工業系高校から大学へ進学後、英数科目で苦労する生徒が多くみられるため、進学専科では、工業科目単位数をしぼり、英数科目単位を増して設定する。

・進学専科設置は、これまでの堺工科の人材育成の取組が評価され、ものづくり人材育成拠点として取組を強めていくため、他の工業系高校の先駆けとして決められたもの。

・しかし、本校は技能技術養成に重点を置いてきた学校であり実績もあげていることから、就職をめざして志願する中学生が多く、企業への人材供給としてニーズが高いという実態がある。この中学生、企業双方のニーズに応えている体制を崩すことなく、今までの人材育成の取組に＋αとして理工系大学進学により技能技術と技術理論を併せ持つ人材育成の取組を付加したものになるようにしていきたい。

【委員の意見】

・人材不足で普通科系高校からも採用しざるを得ない状況にあるが、工業系の知識を育成するには最低３年はかかり、安全教育から教えていかねばならず育成に費用と期間がかかる。そのため、工業系高校からもっと採用したいが倍率が高く、現時点でも必要な人材採用は難しい実態にある。堺工科に進学専科が設置されることは就職希望者が減ることが予想され企業にとって一段と厳しいこととなる。しかし日本の技術レベルを維持することにつながる人材育成の取組がなされることは良いことである。将来的にめぐりめぐって企業の技術力を保持する人材として還元されることに期待したい。日本という国で技能技術を理解する技術者育成に取り組んでいかないと国は廃れる。

・普通科の特進クラスにあたる進学専科が堺工科に設置されることは、喜ばしい。

・「進学する」ことを考えると、今の保護者には普通科系高校が対処するものと考えることが多いのではないか。そこで進学専科ができることを早めに中学生や保護者に周知することが必要である。

・やはり中学生や保護者、中学校の先生には「工科＝就職」のイメージが強い。イメージ払しょくのためには、保護者のみならず地域の方々にも周知すべきであり、さまざまな会合などの機会をとらえて説明し、口コミで広がっていくように取り組まれたい。

・高校全体で大学進学の傾向が増加しているし、大学院進学者も増えている。

・地元中学校としては、いろいろな教育的特色が付加され堺工科が残ることがうれしい。

・工科高校の学力層は高くはない。中学校で勉強できなくても工科高校で資格を取得し就職をめざす子も多い。この環境からも大学に進学したいと考えていても大学受験のための勉強は学校ではできないと諦めている生徒もいるのではないか。そのような生徒のニーズに応えるために進学専科の設置はよいと思うし、工科高校の就職だけとのイメージ払しょくにつながればよい。しかし、あらたな取組なので工科高校から大学へ進学するイメージの浸透を図ることにも取り組まねばならないので、定員割れなどにならないか心配である。
・進学専科設置が、今の堺工科の就職を希望する生徒ニーズと人材を求めている企業ニーズに応えているという良いところを損なうことにならないか。今の取組は良いので保持した方が良い。ものづくり人材育成の拠点校として、進学専科というあらたな人材育成の取組を導入するならば、実践していくために教員増やそのための教員の配置などを強く求めたほうが良いと考える。
・堺工科が進学専科を設置されることで、進学をさらに幅広く選択できるようになったことを地域に周知すべきであり、また公立大学・高専に最も近隣する工科高校であることから公立大学連携や、高専への編入など実現を図られたい。
・地元企業への人材供給ニーズは、人材不足の企業実態からこれ以上縮小させるわけにいかないのではないか。現行のクラス数を保持し就職希望者数を保持しつつ、進学専科を増学級で設置していただけるように要望すべきである。就職希望者を減らすことは、地域に失望を与えることになると考える。
・技能教育をさらに高めるための教員配置を要望し、現時点の取組成果を維持することに務めるとともに、進学専科に対応できる教員の配置についても要望されたい。

４　事務連絡
（１）課題研究発表会：令和６年２月１日（木）
（２）次回の開催：令和６年２月１５日（木）
　　→１５～２０日の間に検討

５　閉会の挨拶